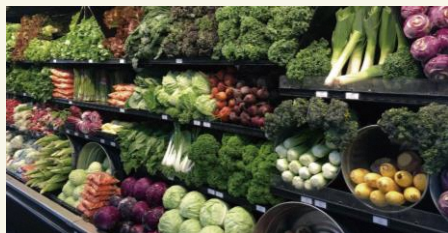


2019年。
横浜南部市場が、
変わります。





食のライブマーケットを創る。

南部市場に、生き活きた食を体験できる交流拠点『食のライブマーケット』を創ります。その地域・その季節ならではの食の魅力、発見・体験・発信する場所。いつでも何かが行われている市場のライブ感が人々を誘い、にぎわいを生み出します。市民にとっては、日々の食卓が豊かになって、街の自慢できる場所に。観光客にとっては、地域の食を求め訪れたいくなる場所に。市民や生産者、来訪者など地域と人が食を中心につながっていく交流拠点を創造します。



南部市場のこれまでの歴史

1973年(S48)11月、横浜市金沢区に南部市場開設。

2010年(H22)7月、全国的に市場経由率の低下が進む一方で市場に対しての負荷や品質管理の強化などの要請が高まっていることから、南部市場の中央卸売市場機能を本場に集約するとともに、加工・配送・流通の拠点として活用していく方針が決定された。

2015年(H27)3月、南部市場は中央卸売市場としての機能が廃止されたが、水産・青果・花き・関連棟の既存事業者の方々は今まで通り事業を継続する。

今回のSCは、南部市場全体(左記青線枠内)のうち赤線枠内の開発となり、水産・青果・関連事業者の方々と共存し、市場と商業施設が融合した新たなSCの形を目指す。

施設概要

所在地:横浜市金沢区鳥浜町1-1他

敷地面積:34,719.81㎡

用途地域:工業地域

防火指定:準防火地域

建ぺい率:60%

容積率 :200%

計画建物:鉄骨造一部2階建て

建築面積 16,276.49㎡

延床面積 20,744.14㎡(屋上階は駐車場)

駐車場台数 774台

駐輪台数 372台

開業予定:2019年 秋

※シーサイドライン南部市場駅直結予定 2019年夏~秋

※今後の進捗により変更となる可能性があります。



※掲載パースはイメージで確定しているものではありません。

発見・体験・発信の循環が、様々な人々の流れを呼び込み、南部市場全体の持続的な価値向上を図ります。



1発見。

食の専門店を集約し、商品の魅力や活気が滲み出す市場らしい通りを形成することで、これまで買出人などのプロしか利用していなかった市場が、一般の人々に開かれたにぎわいエリアに生まれ変わります。専門店は、現在物流エリアで周辺の漁港から地場魚を仕入れている鮮魚店、三浦野菜や横浜野菜を扱う店舗など産直のこだわり店を誘致。所狭しと並べられた季節の食材が購買意欲を誘うとともに、試食や計り売り、店主との会話などを通して買い物を楽しめます。全国各地からの新鮮で豊富な食材を贅沢に堪能できる空間です。



2体験。

本施設に出店する店舗や物流エリア・関連棟で購入した食材をバーベキューやのっけ丼で楽しむことができるなど、市場ならではのコンテンツを提供します。マルシェや軽トラ市、かき小屋など季節を感じられるイベントを行うとともに、土曜朝市との連携を図ることでエリア全体のにぎわい創出を図ります。屋外シネマなど、味覚だけでなく視覚的にも食を感じる仕掛けを演出し、海辺広場には、食材を調理することができる交流スペースや、人々が自由きままに寛げる空間を設け、開放的な雰囲気の中で食を楽しむことができる環境をつくります。



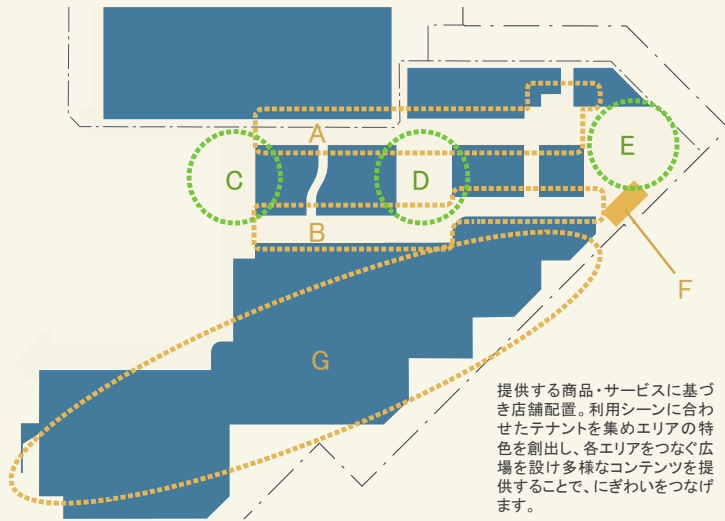
3発信。

消費者自らが興味をもってアクションを起こしたくなるような話題性のあるイベントや地域と連携したワークショップなどを実施し、より多くの人々に地域の食と食文化の魅力を発信します。情報の発信については、地域情報誌などのアナログメディアとWEBやSNSなどのデジタルメディアを活用します。また、周辺観光施設との連携を行い、南部市場全体の価値向上を図ります。



POINT ▶ 期待感を創出する、にぎわいの市場空間。

市場らしい店舗空間やパレット素材を用いたファニチャーなどの市場の記憶を継承する空間、緑を積極的に活用した広場や休憩スペース・イベントスペースなどのにぎわいを創出する空間、これらを融合させ、いままでの市場にはない新しい市場空間をつくります。本施設のにぎわい創出を担う通りや広場が多様な表情を持ち、それらがつながることで市場への期待感や歩いて巡る楽しさを演出します。



A. 飲食エリア



飲食店が軒を連ねる中に、樹木やベンチ、テーブルなどを配置し、にぎわう市場空間の中に自然の心地良さや癒しのシーンをもたらしつづけます。木漏れ日の下で飲食を楽しめる空間です。

B. 食物販エリア



食物販専門店が軒を連ねるこの通りは、各店舗からの商品の積み出しのスペースを提供するとともに、大漁旗や漁師網、集漁灯などをを用いることで市場ならではのにぎわい空間を演出します。

C. ゲート広場



来訪者を出迎える入口として、市場の記憶を継承するパレットなどの素材を用いたモニュメントやサインと多様な緑を融合させることで、新しい市場のシンボルとなる空間です。

D. マーケット広場



店舗に囲まれたにぎわいのある広場として、飲食席やイベントスペースなど多様な使い方のできる空間。チャレンジショップを配置できるスペースも設けた活気のある多目的な場です。

E. 海辺広場



芝生の広場に面して飲食店や交流スペースを設け、緑を感じながら食を楽しむ空間。海側店舗の屋上にはデッキテラスを設け、海を見ながらバーベキューを楽しめます。

F. 交流スペース



調理設備を整えた交流スペースで、和食アカデミー、食育教室などのイベントを開催します。

G. ライフスタイルエリア



利便性の高い場所に、食料品や生活用品を扱う店舗を配置し、継続的ににぎわいをもたらします。